

令和5年度宮崎大学学生農学最優秀賞（地域貢献部門）

グランメール宮崎SECOND



農学研究科：後藤龍生

宮崎県の農産物はマンゴーや日向夏、宮崎牛など非常に素晴らしいものが多く、その認知度も非常に高いです。一方で水産物は宮崎県内の地名を冠する都農アジや北浦灘アジ、美々アジがあります。ブランド鰯の種類が豊富にある県は数少ないですが、その認知度は低いのが現状でした。そこで宮崎県産鰯の認知度を向上させるべく、宮崎県産鰯の加工品を昨年から作成してきました。今年度は宮崎県産鰯加工品を提供し、身近に感じてもらうことを第一目標としました。そこで提供の場として宮崎大学学園祭”清花祭”を選択し、宮崎県産鰯のフライを使用したブリトーを提供しました。宮崎大学の学生のみならず、地域の方や高校生にも多く提供することができました。またこれらの活動をSNSでの投稿や、成果報告会での発表を通して多くの人に発信しました。

また、宮崎日日新聞社に取材していただき、活動が宮崎日日新聞に掲載されました。宮崎県内外問わず、宮崎県産鰯の魅力の発信に微力ながらも貢献できたと感じています。



エビのエビデンス

農学研究科：篠原涼乃

本プロジェクトは、宮崎で収穫できる様々な種類のエビを、栄養化学やイベントを通じて、県内外へアピールしようと思い発足しました。エビにはどのような機能性があるのか、どのような調理・提供方法をとれば、よりおいしく、より楽しくエビを味わっていただけるか、など試行錯誤の数々がありました。また、コロナ渦あけということもあり、対面でのイベント対応や準備をどのように行えば良いか分からないなど課題も多く、プロジェクトの進みが思うように行かないこともありました。しかし、同じプロジェクトの仲間や、先輩方に協力していただき、無事学園祭での宮崎のエビの提供やプレゼン発表によって、宮崎のエビを人々にアピールすることが出来ました。この活動が、もっと色んな方に宮崎の特産品や料理に興味を持ってもらい、実際に食べてみよう、と宮崎の食文化を盛り上げるきっかけになれたのではないかと思います。

令和5年度宮崎大学学生農学優秀賞（地域貢献部門）

宮崎市内のビロウならびにココスヤシの生育異常に関する研究

農学研究科：青山実樹

ビロウ・ココスヤシは本県の南国らしい景観を創り出す上で非常に重要な観光資源です。近年これらのヤシ科植物に関して、宮崎市内で葉に異常をきたす個体が認められているとの報告を受けたことがきっかけとなり、本プロジェクトがスタートしました。調査を進めると、異常個体では葉柄の湾曲や黄化などが認められ、数年かけて枯死に至る個体もありました。本現象の原因として「病害」と「生理障害」の二つの可能性が挙げられ、症状より候補として挙げられたファイトプラズマなどの病原体による病害であった場合には、被害拡大を防ぐため伐採等の対処を急ぐ必要があります。しかし、伐採と新木の調達には多大な費用がかかることから、適切にかつ早急に原因を究明する必要がありました。

植物・虫体試料どちらからも病原体が検出されなかったことから、生理障害の可能性が高いという結論に至りました。ヤシ類は生育スピードが遅いので、施肥効果については今後も長期的な検討を行っていく必要があると考えています。国内におけるヤシ科植物の研究事例は少なく、海外の文献情報を収集し手探り状態でスタートしましたが、応用昆虫学・土壌肥料学分野の方々にも分野横断的にご指導・ご協力いただきながら、市や県と連携して取り組むことにより、原因究明を行うことができました。

本プロジェクトに関わっていただいた全ての方々に心から感謝申し上げます。



にほんごしゃべろう会

宮崎大学：小野有菜、古賀靖子、椎槇子、齋藤江連*

*が受賞者

アフガニスタンではタリバン政権による暫定政権樹立以降、経済の悪化や食料不足が深刻化し、従来の生活を維持することが困難になっています。宮崎大学農学部ではアフガニスタンの元留学生やその家族を令和4年4月から退避留学生として受け入れ、先生方や事務の方々を中心に支援に尽力されてきました。そのような中で、「私たち学生にも何かできることがあるのでは？」と、毎週土曜日に公民館などで、日本人学生を相手にした会話練習の場やお互いの異なる文化を学ぶ機会を作ってきました。

本活動はもともと、「日本語を教えてみよう」「とにかくやってみよう」と、少人数から始まりました。留学生さんやそのご家族と交流しながら、様々な種類の日本語教材を試してみたり、飽きないようにとゲームを取り入れたりと試行錯誤を重ねながら活動を続けてきました。小さな女の子が日本語を理解してくれた時は、本当に嬉しかったです。続けてきてよかったと心から思えた瞬間でした。そんな小さなところから少人数で始めたこの活動でしたが、最終的には農学部の様々な学年からそして他学部からも仲間が集まってくれました。先日は大きな式典が開かれるなど、壮大なものとなり私たち自身でも少し驚いています。先生方や学生と何度もミーティングを行い、皆で協力してきたおかげで達成できたものだと思います。

アフガニスタンの方々に対し、私たち学生ができたことは非常に些細だったかもしれませんが、しかしながら、前より少しでも日本語が、日本にいる人が、日本という国が好きに、そしてこれからの生活に少しでも前向きな気持ちを持てるといいなと思っています。

最後に、活動に際しまして、参加して下さったアフガニスタンの皆さん、たくさん相談に乗って下さった大澤先生、國武先生、平井先生、日本語指導について教えて下さった伊藤先生、山内先生ありがとうございました。

